



さわやか



今年度も校長室だよりを通して、学校経営に関しての私の思い等を伝えさせていただきます。読んで下さい。

適時性を大切にした指導 鉄は熱い（やわらかい）うちに打て！

今年度も「教育力のある学級集団づくり」は、重要実践事項です。では、集団づくりに取り組む時期は、いつがよいのでしょうか？

その前に、集団に必要な条件は何でしょうか？

- ① きまり・ルール（集団内に、規律や共有された行動様式がある）
- ② 承認感（互いを尊重し合い、良好な人間関係がある）

必要条件としての2つを身に付けるのは、学級という集団生活がスタートして、「早い」時期がよいのでしょうか？「遅い」時期がよいのでしょうか？

きまりやルールのない学級は、言い争いや傷つけ合いが起きます。そんな集団は、「集団」とは言えません。烏合の衆と言えます。

学級集団づくりは、早いほうがよいです。ふさわしくないリーダーができたり、凝り固まったグループができてからでは遅いのです。

「鉄は熱いうちに打て」（物事は時期を逃さないうちに実行しないと成功しにくい）という教えのごとく、学級集団づくりは、「早い」時期に行う必要があります。



「スマイルタイム」で、学級の凝集性、一体感を高める！

子どもの自治的な活動！？ 子育ての文化を高めているもの



街に出て「あいさつ運動」する児童会運営委員。

児童会運営委員が、街に出てあいさつ運動を行いました。4年生と5年生の運営委員は、東西の児童玄関に別れ、「名前を付けて」あいさつ運動を行いました。

あいさつ運動は、先輩方から脈々と受け継がれてきた活動です。そうした意味で価値ある活動です。しかし、そこから一步踏み込んで考えてみる必要があります。それは、「あいさつ運動」の目的や成果（この活動によって、あいさつする子が増える）についてです。

そうした意味から考えると、今回、あいさつ運動の場所や仕方を工夫していることに価値が見えてきます。自治的活動がさらに活性化することでしょう。

「学校が落ち着かない」と感じています！？

タイトルの言葉は、週案の反省事項に書かれていたものです。

私は、子ども達の言葉遣いや休み時間等での子ども同士の会話から、「品のなさ」を感じていました。先生方はどうでしょう。今年度に入って、生徒指導上の問題がいくつか出ていますが、そのことと関連がないとは言い難いところがあります。

今年度重点の、校風「さわやかで素敵な塩川小」を創る第一条件は、規律と礼儀です。

- ① 「ルールを身に付ける」と、和やかなで好ましい人間関係が育まれます。
- ② 「言語環境を整える」と、学校生活に潤いと活気が生まれます。この2点を意識して、生徒指導や学級づくりに取り組みましょう。

○教室を空けた低学年の教室は、机と椅子、学習用具が整然としていました(右写真上) ○あいさつ運動を始める前に、心構えを持つ子ども達(下)

